



# 園だより

.....15.6月号

## 「食べること」

入園式からそろそろ2ヶ月が過ぎようとしています。たんぼぼ組の子どもたちの生活には一つずつ「はじめて」のことが加わって、幼稚園の1日が中身の濃い時間になりつつあります。たんぼぼ組の初めてののお弁当の日、子どもたちの様子が気になり部屋を覗きに出かけました。ニコニコと嬉しそうな子どもたち（何人かは緊張の面持ち）の前には、立派なお弁当箱が並んでいました。中身もこれまた立派な一人前。これには少々驚きましたが、子どもたちは美味しそうにそのお弁当を平らげていました。年齢に関わらず子どもたちが、モリモリご飯を食べる姿はそれだけで幸せを感じるものです。

さて、そう組の子どもたちは、畑に様々な野菜の苗を植えて育てています。この組の子どもたちは3年間、野菜の苗を育て続けてきました。たんぼぼの時にはお部屋の前と砂場の脇にトマトやナスなどの夏野菜とポップコーン用のとうもろこしを育てました。花が咲き、実がなりそれが大きくなると収穫し、そのまま、あるいは調理して様々な野菜を自分たちで育てては食べてきました。最初の年、野菜が苦手な子どもたちにはそれを食べることは少々ハードルが高かったようです。それでも一口ずつ自前の野菜を味わいました。もちろん、それが「はじめて」という子もいました。さてポップコーンですが、これは食するまでに少々時間がかかります。収穫したトウモロコシをしばらく干して乾燥するのを待ちました。カラフルな実がとてもきれいでそれが保育室の装飾にもなっていました。カラカラになったらみんなで実をはずしました。これが楽しかった。もっとやりたい気持ちの子どもたちがたくさんいました。あの時の子どもたちからあふれ出ている不思議な熱気を思い出します。やっとこの日が来た！そんな気持ちは収穫の喜びとそれを成し得た自分たちに対する自信のようなもの（少々大袈裟ですが）であったかもしれません。そしていよいよこの乾燥とうもろこしがポップコーンに変身！ボンボン弾ける音、いい匂い、静かになったお鍋の蓋をそっと開けると、そこにはあの・ポップコーン・。「まさか！」ここまできてびっくりしている子どももいたはずです。大好きなポップコーンをたんぼぼ組の仲間たちはこうしてみんなで美味しくいただきました。2年目のばら組の時もまた、ポップコーン用のとうもろこしを育てました。受粉のタイミングがうまくいかず1年目に比べて実の入りが悪く、少し残念でした。でも、そのとうもろこしを見ることができたのも良い経験だったと思います。2年目のばら組ガーデンから収穫された野菜たちは子どもたちの「食」の経験を更に豊かにしてくれました。少しずつですが子どもたちの食べられるものも増えていったように思います。一植え、育て、収穫し食する一すぐに結果を見ることができない経験を重ねることは小さい子どもたちには貴重で大切な経験です。2年目に食べたポップコーンや野菜は1年前とは違う味わいだったのではないのでしょうか。そして3年目。今年もまたそのとうもろこしを植えました。先日の遠足のおやつには、大切にしていたとうもろこしの実で作ったポップコーンが登場していました。

「食べること」は私たちが生きていく時に欠かせないもので、私たちは豊かな食材を得ることもできます。しかし私たちの食卓が本当に豊かであるか(贅沢なものが並び、という意味ではなく)ということそうではないように思っています。子どもが嫌いなメニューは消え、家族が揃うことが稀、子どもも一人で食事をする家庭があるという時代になりました。「食べること」は当たり前の日常ですが、気付かぬうちにそれは非常に貧しいものになっているような気がしています。〈たんぼぼガーデン〉に始まった食の経験は子どもたちの生活を豊かにしています。「食べること」が自然への興味・関心に繋がります。自分の身体や健康への関心に繋がります。それは更に社会や地球の環境に繋がる興味・関心になっていくかもしれません。「食べること」は小さな入口ですが、その先に広がり繋がるものはとても大きいのです。おそろかにはできないと感じています。さあ今日も、私たちが元気で美味しいお食事をいただけることに感謝して「いただきます！」